ツキノワグマにご注意を！

登山シーズンに入ると、三嶺周辺におけるツキノワグマの目撃情報が寄せられます。
ツキノワグマと人間が共存していくためには、クマの生息環境を守るとともに、人間と出合うことにより起こる事故を未然に防ぐ必要があります。
登山者の皆さんは、次のことに注意して安全な登山を行ってください。

1．クマに出合わないために

音で知らせよう
山に入るときはなるべく複数人で入り、鈴をつけるなど、音でクマにこちらの存在を知らせましょう。

クマの糞(ふん)や足跡を見つけたら
近くにクマのいる可能性がありますので、すぐに引き返しましょう。

特に早朝や夕方に注意
クマは夜行性と思われていますが、通常は日中に活動しています。中でも特に早朝や夕方は活発に活動していますので、細心の注意を払いましょう。

2．クマを近づけないために

ごみはクマをおびき寄せます
残飯や生ごみはクマのエサになり、味を覚えると人に近づくようになります。ごみは持ち帰ること。

3．もし、クマに出合ったら

遠くにクマを見つけたら
静かにその場を立ち去りましょう。

クマがこちらに気づいたら
まず、落ち着いて静かにしていれば、ほとんどの場合、クマは立ち去ります。

クマが近づいてきたら
クマの動きに注意しながら、ゆっくりと後退してください。逃げるものを追う習性がありますので、走って逃げてはダメです。大声や投石は、クマを刺激して危険です。

子グマに注意
子グマのそばには、必ず親グマがいます。近づくと危険ですので、落ち着いてその場を離れましょう。

クマを目撃したり、痕跡(こんせき)を見つけた方は、ご連絡ください。

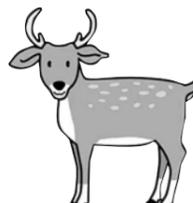
さんれい さんちゃん

森のモリくん

©やなせたかし

問い合わせ・連絡先
産業振興課総務班 ☎53−1062
香北支所地域振興班 ☎52−9286
物部支所地域振興班 ☎52−9289

山に入る方はご注意を！

有害鳥獣による農林作物への被害が深刻な問題となっています。農林作物被害の軽減を目的に、1年を通じて市内一斉の予察捕獲を実施中です。
捕獲には銃やわなを使用しますので、山に入る方は、鈴を身につけたり、目立つ服装にするなど十分ご注意ください。特に土・日は捕獲強化日となっています。

蚊が媒介する感染症に要注意！

ウイルスを保有する蚊に刺されると日本脳炎をはじめとしたいろいろな感染症にかかることがあります。蚊に刺された後、潜伏期間内に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診してください。

■蚊に刺されないために
蚊の多い場所に行くときは、長袖・長ズボンなど肌の露出が少ない服装を心掛け、防虫スプレーなどを活用しましょう。屋内では網戸で侵入を防ぎ、蚊取り線香などを利用しましょう。

■蚊の発生を抑えるために
蚊の幼虫（ボウフラ）は水のある所に発生します。家の周囲を点検し、不要な水がたまらないようにしましょう。

■蚊を潜ませないために
樹木は剪定して風通しを良くし、雑草は刈り取って日が当たるようにしましょう。

■問い合わせ先
健康介護支援課 ☎52−9281
中央東福祉保健所 ☎53−3171

蚊が媒介する主な感染症

日本脳炎
日本脳炎ウイルスは、豚の体内で増殖し、蚊を媒介して人に感染します。発症した場合は重症化し、毎年、数件の国内発症があります。ワクチン接種が有効です。
【症状】発熱、頭痛、吐き気、おう吐、めまい、意識障害
【潜伏期間】６～16日

デング熱
海外の流行地域での感染は続いており、近年国内で感染した症例も報告されています。
【症状】発熱で始まり、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛
【潜伏期間】２～15日　デング熱 厚労省 検索

ジカウイルス感染症（ジカ熱）
近年、海外の流行地域で感染し、国内で発症した事例がありました。妊娠中にジカウイルスに感染すると、胎児に小頭症等の先天性障害を来すことがあります。
【症状】軽度の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、斑丘疹、結膜炎、疲労感、倦怠感
【潜伏期間】２～12日　ジカ熱 厚労省 検索

野山のダニに要注意！

マダニ等にかまれた後、数週間は体調変化に注意し、発熱等の症状がある場合は病院を受診し、ダニにかまれたことを伝えましょう。
また、吸着したダニを無理に引き抜くと、ダニの一部が皮膚内に残ることがあります。できるだけ病院で取ってもらいましょう。

病　名	潜伏期間	症　状
重症熱性血小板減少症候群	６～14日	発熱・吐き気 腹痛・下痢　等
日本紅斑熱	２～８日	高熱・頭痛・悪寒 倦怠感・発疹　等
つつが虫病	５～14日	

■野外で活動したあとは
衣服や体ににダニが付いていないかよく確認。野山から帰った犬や猫にも要注意！

■ダニにかまれないための対策
肌が露出しない服装や長靴などの着用を心掛け、防虫スプレー等を活用しましょう。

■問い合わせ先
健康介護支援課☎52−9281

日本脳炎にはワクチン接種が有効

定期予防接種の機会を逃した方の接種期間が延長されています

日本脳炎の予防接種の差し控えにより、定期予防接種を受けていない方（平成７年４月２日～平成19年４月１日生まれ）は特例措置により、20歳まで定期接種ができます。
また、平成19年４月２日～平成21年10月１日生まれの方で、第１期の接種をしていない方は９歳～13歳の間で第１期の定期接種を受けることができます（９歳に達してから、第１期・第２期の予診票を送付します）。
定期接種に該当する方には予診票を送付しています。予診票のない方はお問い合わせください。

日本脳炎の詳しい情報は…
日本脳炎Ｑ＆Ａ 検索

■問い合わせ先
健康介護支援課親子すこやか班☎52−9281